新潟県自殺予防教育プログラム（小中学校編）

ＳＯＳの出し方に関する授業 Step２　学習指導案（小中学校編）

１　ね ら い：　相談する場面の練習をとおして、相談相手や相談方法について具体的なイメージをもち、悩んだとき等に相談できるようになる。

２　対　　象：小学校高学年、中学１～３年生

３　使用教材：□ワークシート「かかえこまずに相談しよう」

□教材動画「なやんだときは、かかえこまずに相談しよう」

□黒板表示「ロールプレイのポイント！」

□プリント「相談窓口一覧」

□相談に関する１分間アンケート（授業の前日までと、翌日以降の２回実施）

４　評価規準：相談相手や相談する際の言葉を具体的に考えることができた。

５　本時の流れ：45分

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点等 |
| 授業前日  まで | ※心身の不調を抱えているなど、配慮の必要な児童生徒には、あらかじめ授業に参加できそうか確認し、必要な対応を行う。 | |
| 導入  ５分 | １ 授業のねらいを確認する。  皆さんは、悩んだり困ったりしたとき、誰に相談しますか？ | 💡事前アンケートを実施して、その結果を活用することもできる。  ・悩んだり、困ったりしたときに相談できるようになってもらいたい願いを伝える。 |
| 展開１  12分 | ２ ワーク１  相談するときのポイントに気づく。  Ａさんの良かったところはどこでしょうか？  ○個人で考え、ワークシートに記入する。（２分間）  ○班で意見を共有し、発表の準備をする。（３分間）  ○学級で意見を共有する。（５分間）  （例）相談するときのポイント  ①身近なしんらいできる人に声をかける  ②勇気を出して、相談したいと伝える  ③できごと、自分の気持ちを話す | 💡４コママンガのやり取りを授業者や児童生徒が演じて、イメージを具体的にすることもできる。  ・正解、不正解があるものではないので、どのような意見も否定しないことを指導する。  💡ＩＣＴ機器や黒板掲示できる用紙を活用して意見を共有することもできる。  ・児童生徒の意見を大切にして、無理にポイント①～③に寄せようとしない。 |
| 展開２  13分 | ３ ワーク２ 友だちに相談する方法をロールプレイで練習する。  ○シナリオを黙読する。  ・Ａさんの行動の中に、ワーク１で発見 | 💡ティームティーチングで授業者によるデモンストレーションを見せると、児童生徒が取り組みやすくなる。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | したポイントが含まれていることを確認する。  ○次の１～４を、役を交代して２回実施する。  １.ペアで役を決めて、Ａさん役は２つ目のセリフから１つを選択する。  ２.ロールプレイを行う。（１分間）  ３.役を演じてどのような気持ちになったか、Ａさん役、Ｂさん役の順番で伝え合う。（２分間）  ４.学級で上記３を共有する。（３分間）  ○ペアで互いにお礼を言う。 | ・黒板表示「ロールプレイのポイント！」を提示して指導する。また、セリフは言いやすい言葉遣いに少し変えてよいことを伝える。  💡３人グループで実施し、観察役を設定することで学びを深めることができる。  💡ロールプレイ後にペアで、互いの良かったところを伝え合うこともできる。  ・相談する前は勇気が必要だが、相談したら安心した気持ちになることを共有する。 |
| 展開３  ５分 | ４ 教材動画を観る。 | ・児童生徒を観察して、心配な様子が見られた場合はそっと声を掛ける。 |
| まとめ  10分 | ５ ワーク３ 相談相手と相談方法について、具体的なイメージをもつ。  あなたは困ったとき、だれに相談しますか？３人、考えてください。  また、どのような言葉で相談を始めますか？具体的に書いてみましょう。  ・個人で考え、ワークシートに記入する。（４分間）  ６ 授業者からの話（まとめ）を聞く。（３分間）  ・相談窓口一覧を受け取り、説明を聞く。  ・ワークシートを提出する。  ※可能であれば「相談に関する１分間アンケート」を実施し、児童生徒の実態を把握し、児童生徒理解やＳＯＳの声の確認に活用する。 | ・相談相手が書けないでいる児童生徒には、そっと声を掛け、先生に相談すると仮定して記入するよう促す。  ・ワーク３はグループ共有等を行わない。  　発表や話し合いがないことを児童生徒に伝え、安心して取り組めるようにする。  ・授業のねらいを確認したり、助けを求めることの大切さや、いつでも先生に相談してもらいたいという願いを伝える。  ・相談相手として、電話相談等も活用できることを伝える。  ・ワークシートやアンケートは他の児童生徒から見られないように工夫して回収する。  ・授業後に全員分の記述を確認する。  ※必ず回収日のうちに内容を確認し、ＳＯＳの声が書かれているか確認する。 |